

ばらんす

■編集発行 大田原市企画部企画政策課 男女共同参画係 〒324-8641 大田原市本町1丁目4番1号 ☎0287-23-8701 FAX0287-23-8748

第22回男女共同参画社会を考えるつどい

1月21日(土)大田原市総合文化会館で
大田原市女性団体連絡協議会と大田原市の主催により行われました。

報告会

《第4回大田原市女性の海外研修報告》団員10名により報告がありました。



お母さんを送り出した
小学1年生感想発表



講演会

講師:デビット・ソペティ先生
演題:家族が大好き!みんなで楽しい奮闘

22回男女共同参画社会を考



つどい参加者数

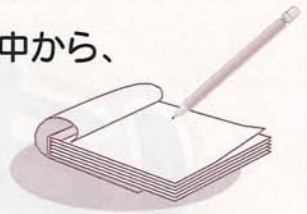
	第22回つどい	第21回つどい(前回)
男性	131名	96名
女性	318名	280名
合計	449名	376名

参加者の感想

- ・家族を愛し、大切にしたいという思いがひしひしと感ぜられ夫婦のあり方に希望がもてた。
- ・「日本の男性をだめにしてるのは女性です」の言葉に、男の子を持つ母親として考えさせられた。
- ・子どもは二人で育てるものだと思った。
- ・うなずけることがたくさんあり、育児中の男性に聞いてもらいたいと思った。

つどい参加者のアンケートから

つどい参加者に答えていただいたアンケート9項目の中から、問6・問8の2項目の回答結果を表にしました。



問6.現在、男女平等が実現されていると思いますか

◆就職の機会や職場の中で

(%) アンケート回収率

職 場	男	女	総計
平 等	0.0	4.3	3.4
ある程度平等	29.0	31.6	31.1
あまり平等でない	29.0	31.6	31.1
ほとんど平等でない	9.7	11.1	10.7
平等でない	12.9	0.9	3.4
未 回 答	19.4	20.5	20.3
	100	100	100

男性：24%	31/131人
女性：37%	117/318人
合計：33%	148/449人

◆法律や制度の中で

(%)

制 度	男	女	総計
平 等	12.9	4.3	6.1
ある程度平等	45.2	35.9	37.8
あまり平等でない	16.1	38.4	33.7
ほとんど平等でない	6.5	3.4	4.1
平等でない	3.2	0.9	1.4
未 回 答	16.1	17.1	16.9
	100	100	100

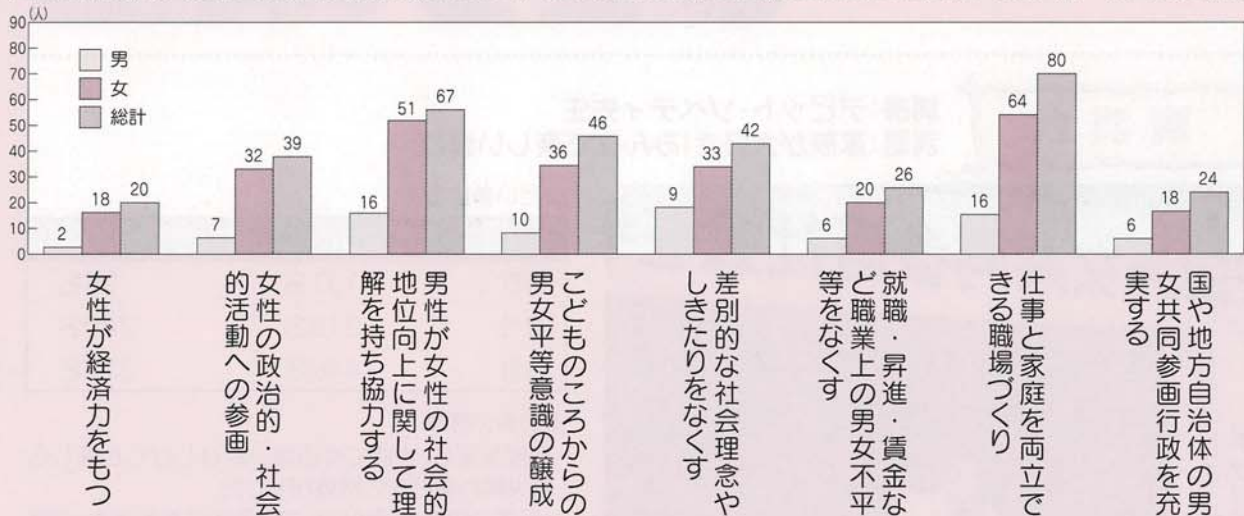
◆地域社会の中で

(%)

地 域	男	女	総計
平 等	6.5	4.3	4.7
ある程度平等	19.4	23.9	23.0
あまり平等でない	41.8	48.7	47.3
ほとんど平等でない	3.2	6.0	5.4
平等でない	9.7	3.4	4.7
未 回 答	19.4	13.7	14.9
	100	100	100

「男女平等が実現されていると思いますか」との問いには、「ある程度平等」「あまり平等でない」と答えた方が男女とも多く、男女平等が実現されつつはあるが、反面ではまだまだと思われる方が、同程度いるという面白い結果となりました。

問8.男女共同参画社会実現のために、どのようなことが必要だと思いますか（3つ選択）



問6・問8の結果に感じたことがありましたら(ばらんす編集部)までご意見をお寄せ下さい。

男女共同参画社会の実現を阻害するDV(配偶者からの暴力)とは

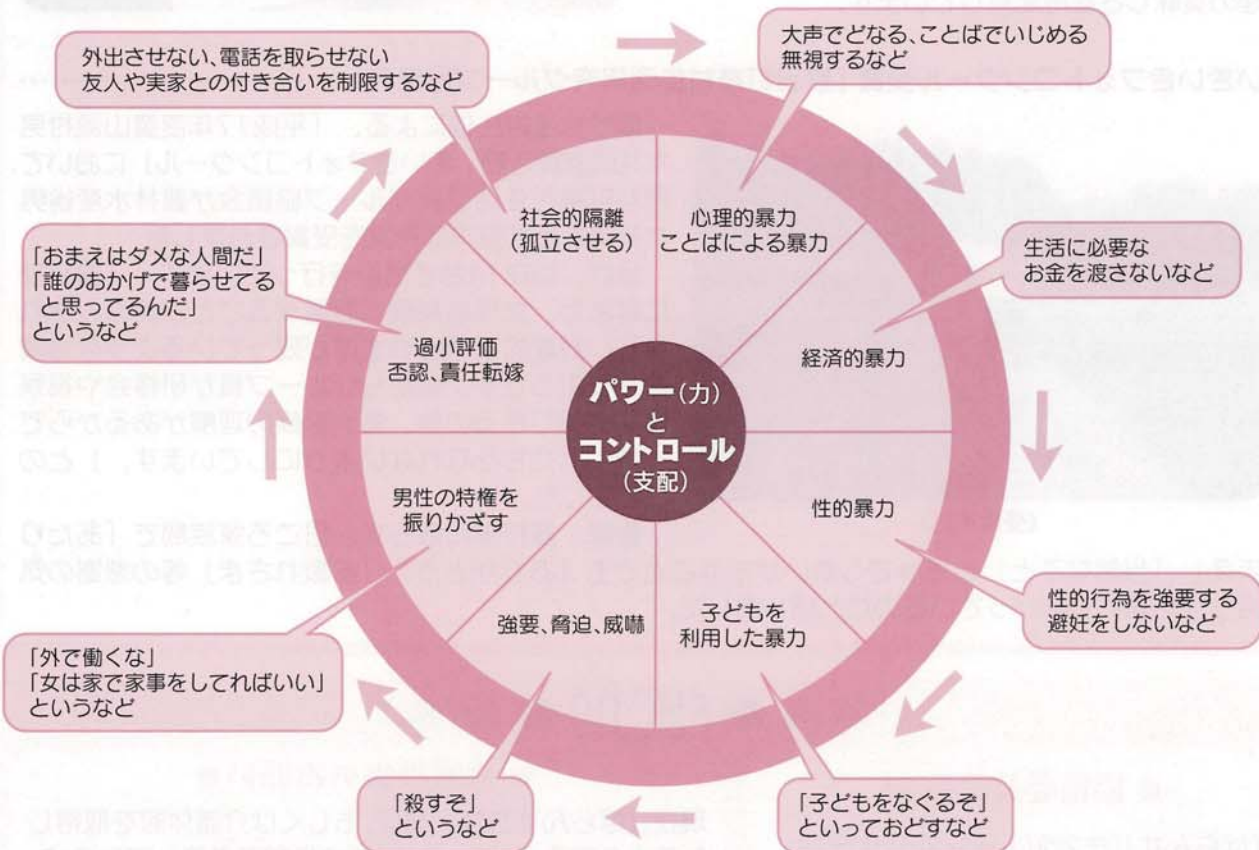
男女共同参画社会の基本理念を踏みにじり阻害するものとして、女性に対する暴力の存在があります。そもそも、暴力はその対象の性別や加害者の間柄を問わず、決して許されるべきものではありません。

配偶者からの暴力の特異性

- 家庭内で行われるため、外部から発見、介入が困難である。
- 加害者に罪の意識が薄く、継続して行われるため、内容がエスカレートして重大な被害が生ずる。
- 相手方の人格を否定し従属的な関係を強要するものであるため、個人の尊厳を害する。

DVの構造

「パワー(力)とコントロール(支配)の車輪」



「あそこの家庭は暴力をふるう夫も悪いけど、あまり家事をしていない妻の側にも原因があるのでは」という意見がありますが、では、職場ではあまり仕事をしない部下がいたら、その上司は部下を殴ってもいいのでしょうか。殴られて怪我をした部下は、傷害罪で刑事告訴することができるはずですが。同様のことが家庭内でもいえるのではないのでしょうか。家庭内だから暴力が許されるということはありません。

"暴力で相手を支配しようとすることは、いかなる場合においても人権侵害であり、犯罪なのです"
(「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」が制定され、DVが犯罪として認識されるようになった。)

DV問題の解決として

被害者を保護し、その自立を支援することと併せて、「DVの加害者、被害者を出さない」、「暴力を許さない」という社会を実現することが不可欠です。

私たち、一人ひとりがDV問題を正しく理解し、男女が互いの人権を尊重し合える男女共同参画社会を目指していかなければなりません。

市民学校 男の厨房専科 PART II 会員の声

少子高齢化時代を迎え、男性も家事の役割りの一端を担う必要性が高まっています。

市総合文化会館料理教室で開かれている「男の厨房専科」は、そのような時代を先取りした男の料理教室です。

受講の動機は「これからの時代、料理の一つくらい出来なくては!」「妻が病気になったら…」など、仕事一筋で社会を支えてきた年代の男たちが、慣れない包丁を片手に冷や汗を流しています。そんな体験を通し、家事への理解とパートナーへの感謝の心を育んでいます。

また、立場を超えた仲間たちと共に手作りの料理の美味しさを再発見しています。



いきいきフォトコンクール受賞「黒羽町農村生活研究グループ協議会」



《受賞作品》

農林水産省主催による、「平成17年度農山漁村男女共同参画活動いきいきフォトコンクール」において、黒羽町農村生活研究グループ協議会が農林水産省男女共同参画推進本部長賞を受賞されました。

会は、現在14名で活動を行っています。「農村部にはまだ、女性は我慢、忍耐することが美德とされたり、封建的な慣習や言葉が残っているような地域もあるようです。私たちグループ員が研修会や視察等に参加できるのは、夫や家族の理解があるからで、感謝の気持ちを忘れないようにしています。」とのことでした。

農家・農村部に限らず、日ごろ家族間で「あたりまえ」「当然なこと」と思っけてしまいがちなことでも「ありがとう」「お疲れさま」等の感謝の気持ちが活動につながっているのだと感じました。

● ● ● お願い ● ● ●

● 編集委員募集 ●

「ばらんす」[年2回(11月・3月)発行]の編集ボランティアを募集します。
○編集会議:年6回(平日)9:30~11:30
○年齢・性別は問いません。
応募される方は、右記に御連絡ください。お待ちしております。

● 情報提供のお願い ●

現在、「ばらんす」では、育児、もしくは介護休暇を取得したことがある(している)男性の情報を募集しています。下記まで御連絡ください。

● 連絡先 ●

連絡先:大田原市企画部企画政策課男女共同参画係
TEL.0287-23-8701 FAX.0287-23-8748

編集後記

「紀子さま第三子ご懐妊」の報に、ほのぼののところあたたまる思いと、力強いものを感じた。我々の場合は「男でも女でも元気に生まれてくれれば…」と願っているが、お生まれになるお子様の性別がこんなに重大な意味をもっているとは!改めて歴史と伝統の重みを痛感している。皇室典範改正の声もあがっているが、伝統と原理原則の間で世論が揺れ動いている。とにかく、元気なお子様がお生まれになることを祈っている。(大久保)

*編集委員(アイウエオ順) 大久保愛子 神立道子 栗原敏子 住吉すみ子